

第 2 回日本放射線安全管理学会・日本保健物理学会合同大会を開催しました (2019/12/4-7)

テーマ：放射線安全管理学、保健物理学、福島原発ツアー、BCP、水晶体被曝
 会場：青葉山 commons、災害研多目的ホール、環境研大講義室など

2019年12月4日から7日にかけて、第2回日本放射線安全管理学会・日本保健物理学会合同大会を東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター 渡部浩司教授と同大学薬学研究科 吉田浩子准教授の両大会長により開催されました。稲葉洋平助教（災害医学研究部門 災害放射線医学分野）は実行委員として運営に携わりました。当学会は、放射線防護学、保健物理学・放射線管理に関する様々な研究者・技術者・実務家の専門家が一堂に会して毎年行っています。さらに今回は国内だけでなく、英国放射線防護学会、韓国放射線防護学会、国際放射線学会から会長、専門家が多数出席し、のべ約 500 名以上の参加がありました。メイン会場を当研究所多目的ホールとし、口述発表 110 題、ポスター発表 95 題の計 205 演題の発表が行われ、その他シンポジウムや招待講演など 4 日間に渡って開催されました。企業機器展示では、約 20 社がそれぞれのブースで放射線に関する計測機器などを展示しました。

6日には、当研究所の佐々木宏之准教授（災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野）が招待講演で「災害時の病院機能継続を考える（病院 BCP）」について講演を行いました。また 7日には、千田浩一教授（災害医学研究部門 災害放射線医学分野）がシンポジウムで「水晶体防護にかかる医療における課題」について講演を行いました。さらに、当分野の太田洋一研究生が以下の演題で優秀ポスター賞を頂きました。

優秀ポスター賞

演題名：小学校児童への放射線教育用インタラクティブ教材の試作

演者：太田洋一、千田浩一ほか



メイン会場（多目的ホール）



シンポジウム（千田浩一教授）



招待講演（佐々木宏之准教授）



優秀ポスター賞（太田研究生）

文責：稲葉洋平（災害医学研究部門）